

表現特性から探る桜ソングの「桜像」

～人々にとっての桜とは～

国語表現ゼミナール

1. 研究概要

1-1. 研究動機

古くから人々は、咲き誇る桜、空に舞う桜、散りゆく桜に心を動かされ、その様々な思いを歌に乗せてきた。現代においても、桜は多くの楽曲のモチーフとされ、人々を魅了し続けている。私たちはこのような桜をモチーフとした楽曲を「桜ソング」と称し、その表現特性に着目した。

桜は、出会いと別れの季節である春に咲く。そしてその美しさや儂さから、見る人に様々な思いを抱かせる。本研究では、「桜ソング」の表現特性を分析することで、人々はどのような桜を見て、どのような感情を抱くのか、また、それはどのような表現をもって描き分けられているのかを明らかにする。

1-2. 研究方法

今回の研究に当たって、私たちは歌詞検索ソフト LyricsMaster を用いて、曲名に「桜」「櫻」「さくら」「サクラ」「SAKURA」が含まれる楽曲を収集した。

その中から、樹木の桜がモチーフでない楽曲（「桜貝」「桜島」などがモチーフとなっている楽曲）を除く 438 曲を抽出した。

そして抽出した 438 曲を「ジャンル」「オノマトペ」「色彩」「状況」「情景」「主人公」「対人物」「キー行動」「感情」「桜を通してみている時間」「桜の形容のしかた」等の観点から分析し、データを照らし合わせながら桜ソングについての考察を進めた。本稿では、「ジャンル」、「感情」、「桜を通してみている時間」、「桜の形容の仕方」の 4 項目について分析・考察する。

2. 歌詞分析

以下では、「ジャンル」、「感情」、「桜を通してみている時間」、「桜の形容の仕方」の 4 項目についての分析結果をまとめる。

2-1. ジャンル

ここでは、多様な主題をもつ桜ソングをその主題に基づいて分類する。桜ソングの主題は主に「恋愛ソング 1」、「恋愛ソング 2」、「失恋ソング」、「離別ソング」、「卒業ソング」、「死別ソング」、「人生ソング」、「青春ソング」、「応援ソング」、「スタートソング」の 10 ジャンルに分類することができた。また、いずれのジャンルにも属さないものは、「その他」として扱った。今回の研究で私たちがジャンルの分類に関して定めた基準は、次のとおりである。また、それぞれそのジャンルの楽曲例と、判断理由を載せている。

・恋愛ソング 1

特定の個人に対する、現時点では成就していない恋心が描かれているもの。純粋な恋心の他に、素直な気持ちを伝えられないもどかしさや、相手の気持ちが自分に向いていないことによるつらさなどが綴られていることもある。

楽 曲 例	判断理由
<p>ああ さくら満開 <u>ねえ さくら満開</u> <u>好きすぎるわ もう あなた以外の人は</u> <u>目にも映らないみたい</u> (中略) 胸の中 もう 言葉にならないくらい 恋の花が 満開 さあ 打ち明ける瞬間 ああ 小 さな胸が張り裂けそう だからねえ <u>告</u> <u>白したら抱きしめて 優しく</u> モーニング娘。『さくら満開』</p>	<p>傍線部「好きすぎる～」より、相手に対する恋心が読み取れる。 また、波線部「告白したら～」では仮定形を用いており、視点人物がまだ告白していない＝現時点では恋が成就していない、ということが分かる。</p>

・恋愛ソング 2

現時点で相思相愛の状態にある相手への思いが綴られているもの。その相手は恋人関係又は夫婦関係にある相手であることがほとんどであるが、そうでないパターンも見られる。相手への深い愛情や二人で共に歩んできた時間に対する感慨、未来への期待などが綴られている。

楽 曲 例	判断理由
<p>さくら <u>あなただけを愛してる</u> <u>これから</u> <u>からも これからも ずっと二人で</u> <u>こ</u> <u>ろ 一人じゃない 永遠に 何度でも</u> <u>何度でも 咲き続けるよ</u> <u>いつまでも</u> <u>いつまでも あなたのそばに</u> ゆず『桜会』</p>	<p>傍線部「あなただけを～」より、相手への恋心が読み取れる。また、「これからもずっと二人で」と言っていることから、二人が相思相愛の状態にあると考えることができる。 波線部「永遠に～」からは、未来への期待が描かれていることが分かる。</p>

・失恋ソング

恋人同士であった二人の関係において、気持ちのすれ違いや時間の経過によって互いの「精神的距離」が離れたことによる別れが描かれているもの。その別れは、どちらか一方のみが望む別れであり、もう一方はその別れに苦痛を感じている。基本的には別れを告げられた側の立場からその心境が歌われており、後悔や未練の念が窺える表現が用いられている。

また、特定の個人に対して一方的に抱いていた恋心がその相手に受け容れられなかったことによる悲しみが綴られているものも、ここに分類している。

楽 曲 例	判断理由
<p><u>あなたと誰かのこれからを</u> <u>春の風を浴</u> <u>びて見てる</u> <u>桜の花びら散るたびに</u> <u>屈</u> <u>かぬ思いがまた一つ</u></p>	<p>傍線部「あなたと～」より、相手と視点人物が、現在は精神的に離れていることが読み取れる。相手に対する未練の念が</p>

コブクロ『桜』	うかがえる。 また、波線部「届かぬ思い～」からも、視点人物の恋心が成就しないことが読み取れる。
---------	--

・ 離別ソング

諸事情による引っ越し等、やむを得ない事情によって人と人との「身体的距離」が離れた、又はこれから離れることによる別れが描かれているもの。旅立つ側の心境が歌われているものと、見送る側の心境が歌われているものとに分かれる。恋人や友人との別れに抱いた気持ちが描かれているものがほとんどであるが、特異な例として、嫁いで親元を離れていく娘に対する親の気持ち等が描かれているものも、ここに分類している。

楽 曲 例	判断理由
今もどこかで頑張っているのかな？ 気がつけば今年も 春が降る 花香る 一面に桜が咲き乱れるように 舞う花の彩り鮮やかに <u>僕らもきつと咲き誇ろうねと誓った</u> 高橋優『さくらのうた』	傍線部「今も～」より、2人の「身体的距離」が離れていることが分かる。 また、波線部「僕らも～」より、2人の別れが何らかの目標を達成するためであることがうかがえる。

・ 卒業ソング

大きく分けると離別ソングに包括されるが、その中でも取り立てて「卒業」による離別が描かれているもの。個人から個人への思いが綴られているものの他に、個人から「友達」や「仲間」といった複数の人物に対する思いが綴られているもの、そして「学校」という場所そのものとの離別について歌われているものなどがある。

楽 曲 例	判断理由
厳しかったあの先生だって僕らを想ってくれてた 今さら希望と不安が溢れ出す前を見て進もうと心には決めてるけど… かけがえのない僕の宝物は 仲間と過ごした時間 大切に胸にしまっておくからずっと <u>桜の季節 お別れだね…</u> EXILE ATSUSHI『桜の季節』	歌詞全体から、学校生活について振り返っていることが分かる。 また、傍線部「桜の～」から、春の別れがうたわれていることが分かり、この楽曲が卒業を主題としていると判断できる。

・ 死別ソング

大きく分けると離別ソングに包括されるが、その中でも取り立てて片方の死による離別が描かれているもの。永遠の別れに対する強い悲しみの他に、それでも前を向こうとする強い気持ちが綴られていることも多い。

楽 曲 例	判断理由
月の光に 妖しく匂う <u>花はあなたの横たわる姿 私が死んだら 桜になる</u>	傍線部「花は～」より、桜の花と「あなた」の死んだ姿が重ねられていることが

<p>わ それがあなたの 口癖だった。 櫻、櫻 夢かうつつか ぼくを抱きし める あなたの匂。 まるであなたの 涙のように花が散ります はらはらと 泣いて</p> <p style="text-align: right;">氷川きよし『櫻』</p>	<p>分かる。 また、「口癖だった」と過去形を使用し ており、「あなた」が過去の人物であるこ とが強調されている。</p>
--	--

・人生ソング

自身の経験を通して、作詞家の人生観が描かれているもの。ひとつの経験の中における感情を綴るに留まらず、それを飲み込み解釈して、人間の一生を俯瞰していることが特徴的である。

楽 曲 例	判断理由
<p>行け 男よ… 人生 一炊の夢なれど 生きて愛して 鮮烈に 炎のように 駆 けて行け 生きて愛して 鮮烈に 櫻の 花の 花のごとく</p> <p style="text-align: right;">細川たかし『櫻の花の散るとく』</p>	<p>楽曲中では、作詞者の人生観が描かれて おり、比喩表現的に櫻が用いられてい る。</p>

・青春ソング

10代・20代の少年少女による、学校生活における喜怒哀楽やアイデンティティの探求など「青春」と呼べる日々が描かれているもの。人生における一時期に特有の葛藤などについての記述が中心となっている。

楽 曲 例	判断理由
<p>ひとり都会(まち)でつまずき 心折れ た夜は 膝を抱えているより 古いノ ート開く 思い出たちよ 寄せ書きの 中 櫻の押し花 枯れずにひとつ い まも青春 あざやかに</p> <p style="text-align: right;">山本あき『桜の子径』</p>	<p>楽曲中では、「古いノート」をとおして思 い出される青春の日々が描かれている。</p>

・応援ソング

特定の誰か、又は不特定多数の第三者に対する応援のメッセージが綴られているもの。呼びかけの表現が多用され、他者を鼓舞する内容となっている。

楽 曲 例	判断理由
<p>空に舞え 夢を描く風 空高く 吹け 広い世界へと 春一番の風に吹かれ 君 の想いよ さあ 花となれ 春一番の風 に吹かれ 何より強く さあ 咲き誇れ</p> <p style="text-align: right;">ET-KING『サクラサク』</p>	<p>波線部に示されるように、楽曲中では、 呼びかけの表現が多くみられる。 また、傍線部「君の想い～」は他者を鼓 舞する表現になっている。</p>

・スタートソング

環境の変化等による個人の新たなスタートが描かれているもの。過去の自分を振り返ったうえでの未来への期待や意欲、決意などが綴られている。

楽 曲 例	判断理由
自分を信じる勇気 それこそが花言葉 桜風が吹き抜けて この道先回りして 呼んでいるよ ほら顔上げて進むんだ 咲きの時 WALK ABOUT『桜風』	「自分を信じる勇気」、「ほら顔上げて進むんだ」という部分から、前に進もうという決意、未来への期待が読み取れる。

以上の10ジャンルである。「ジャンル」の分析では、今回分析対象とした438曲を分類、集計し、「桜ソングの桜像」を明らかにするための足掛かりとすることを試みた。438曲のジャンルの内訳は、次の表の通りである。

〈桜ソング ジャンル別内訳〉

ジャンル	曲数	割合 (%)
恋愛ソング 1	47 曲	11%
恋愛ソング 2	54 曲	12%
失恋ソング	99 曲	23%
離別ソング	79 曲	18%
卒業ソング	34 曲	8%
死別ソング	19 曲	4%
人生ソング	29 曲	7%
青春ソング	9 曲	2%
応援ソング	38 曲	9%
スタートソング	19 曲	4%
その他	11 曲	3%

失恋ソング、離別ソングがそれぞれ全体の約2割を占めている。つまり、過程が違うものの、「別れ」を主題に置いた楽曲が、全体の約4割を占めているということである。これは、桜の「散る」という特性が、物事の終わりを想起させるからではないだろうか。

また、同じように、それぞれ全体の約1割を占める恋愛ソング1、2に関しては、咲き誇る桜、空を舞う桜に、視点人物は思いを乗せるからではないだろうか。

2-2. 感情

ジャンル分けをした後、それぞれの楽曲内においてどのような感情が描かれているのか分析した。ひとつの楽曲内に複数の感情が描かれていることがほとんどであったが、今回はその中でも、「作詞の動機となったと考えられる感情」を「中心感情」と称し、それに着目した。その結果、桜ソングにおける中心感情は主に「愛しさ」、「さびしさ」、「悲しみ」、「勇気」、「決意」、「期待」、「郷愁」、「感謝」の8つに分類することができた。今回の研究では、私たちが定めた以下の基準に基づいてその感情を判断した。なお、8つの感情のいずれにも当てはまらないものは「その他」として扱っている。

感情	判断基準
愛しさ	親しい人物や恋人を思う気持ちや、その相手を前にしたときに沸き起こる感情。主に恋愛的感情であるが、家族に対する親しみの情を表す場合もある。
さびしさ	元々手元にあったものやそばにいた人が離れていったことによる喪失感から引き起こされる、慢性的な負の感情。
悲しみ	辛い出来事の発生によって引き起こされる衝動的な負の感情。
勇気	迷いや恐れ、不安を断ち切って前に進もうとする心の動き。

決意	自分の進む方向や行動、心の持ち様について、強い意志をもって覚悟を決める心の動き。
期待	現状がより良い方へ向かっていくことを願う気持ち。
郷愁	故郷を懐かしく思う気持ち。ふるさとに対する思慕の情。
感謝	友人や家族などに対してありがたく思う気持ち。

以上の8つである。今回分析した438曲の「中心感情」の割合の内訳は、次の表の通りである。

〈桜ソング 中心感情内訳〉

中心感情	曲数	割合 (%)
愛しさ	113 曲	26%
さびしさ	96 曲	22%
悲しみ	50 曲	11%
勇気	42 曲	10%
決意	44 曲	10%
期待	38 曲	9%
郷愁	6 曲	1%
感謝	21 曲	5%
その他	28 曲	6%

愛しさ、さびしさが描かれている楽曲がそれぞれ2割強となったが、突出して値の大きな感情は見られなかった。人々が桜に対して抱く思いは、単一的なものではなく、多岐にわたるといえる。

また、桜ソングで描かれている感情についてさらに分析すると、その多様な感情は、今現在を見つめて抱いているものというよりは、過去を振り返ったり、未来を思ったりするときに抱かれているものであるということが判明した。そこで私たちは、収集したデータのうち、「時間」に注目することにした。

2-3. 時間

私たちは、人々が過去や未来を見る心の動きに桜が関与しているののではないか、つまり桜が、見る人に過去や未来を想起させているのではないかという予測を立て、分析を進めていった。

まず、桜が、過去や未来を見るきっかけとして登場している楽曲が438曲中228曲あり、その割合は全体の52%であった。その52%の楽曲に着目し、楽曲内の視点人物は桜を通して過去・現在・未来のどの時間を見ているのかを分析した。それぞれの割合は次の通りである。

〈桜ソング 桜を通して見る時間〉

時間	曲数	割合 (%)
過去	81 曲	18%
現在	41 曲	9%
未来	51 曲	12%
過去・現在	4 曲	1%
過去・未来	44 曲	10%
現在・未来	3 曲	1%
過去・現在・未来	4 曲	1%

人々は、現在見ている桜と過去に見た桜を重ねて回想したり、桜に「春」という始まりの季節を重ねて未来を思い描いたりする。その心の動きが、桜ソングには表れていた。

2-4. 桜の形容表現

ここまでは、桜ソングのジャンルと描かれている感情、そして人々が桜を通

して見る時間について分析してきた。私たちは、それらを描き出す歌詞全体の表現の中でも、やはり桜の形容表現が大きな役割を果たしているのではないかと考え、それぞれの楽曲において桜がどのような表現をもって形容されているのかを調べた。

2-4-1. 桜の形容表現とその用いられ方

歌詞中には様々な桜の形容表現がみられたが、今回はその中でも「舞う」と「散る」の二つに着目した。これらの表現は、いずれも桜の花弁が地面に落ちるまでの過程を形容したものであるが、両者が同じ現象を表しているにも関わらず、敢えて使い分けられているのである。それに疑問を抱いた私たちは、謎を解き明かすべく分析を進めた。

まず、「舞う」と「散る」がそれぞれどのような文脈上で用いられているのかを分析し、その傾向をまとめることにした。次の楽曲はその一例である。

(楽曲例)
 桜舞う 桜舞う真白な空
 に 僕達はどんな笑い
 顔を描けるかな 桜散
 る 桜散る季節がくれた
 悲しみも別れも 春色の
 大切な宝物
 キンモクセイ『さくら』

楽曲例の歌詞において、桜「舞う」空は「笑い顔を描」くものとして扱われており、桜「散る」季節は「悲しみ」や「別れ」の季節として扱われている。つまりこの楽曲において「舞う」はプラスイメージ、「散る」はマイナスイメージを伴う表現として用いられているのだ。プラスイメージ、マイナスイメージについては、「別れ」や「笑い顔」などといった単語による判断だけではなく、その単語やフレーズがどのような文脈上で

使用されているのかにも留意して判断した。なお、ひとつの楽曲内において、ある文脈上ではプラス、ある文脈上ではマイナスのイメージを伴って用いられている「舞う」や「散る」については、「プラス・マイナス」として扱っている。更に、その桜がなんらかの感情を表すものとしてではなく、単に景色の一部として用いられているものについては、イメージは「ゼロ」として扱っている。他の楽曲における「舞う」「散る」という表現がもつプラス・マイナスイメージについても傾向の調査を行うと、次のような結果になった。

舞う	プラス	マイナス	ゼロ	プラス・マイナス
84 曲	60 曲	14 曲	9 曲	1 曲
100%	71%	17%	11%	1%

「舞う」という表現が用いられている楽曲が 84 曲あり、そのうち 60 曲における「舞う」が、プラスイメージを伴って用いた。これは、全体の約 71%にのぼる。「舞う」は、主に幸福な思い出や未来への期待、希望、夢などと重ねられた桜を形容する際に用

いられる傾向にある、ということが考えられる。

また、「散る」という表現が用いられている楽曲が 118 曲あり、そのうち 98

散る	プラス	マイナス	ゼロ	プラス・マイナス
118 曲	5 曲	98 曲	14 曲	1 曲
100%	4%	83%	12%	1%

曲における「散る」が、マイナスイメージを伴って用いられていた。これは、全体の約 83%にのぼる。「散る」は、主につらい別れや挫折、人の死などと重ねられた桜を形容する際に用いられる傾向にある、ということが考えられる。

2-4-2. ジャンル毎に見る「舞う」「散る」の特徴

次に、「舞う」「散る」の使用頻度と各楽曲のジャンルとの間に何か関わりがあるのではないかと考え、データを照らし合わせることにした。ジャンルと「舞う」「散る」の使用頻度、そしてその「舞う」「散る」がもつプラス・マイナスイメージとの関係は次の表の通りである。

〈左：ジャンル毎「舞う」が登場する楽曲数と±〉

〈右：ジャンル毎「散る」が登場する楽曲数と±〉

ジャンル\±	ゼロ	プラス	プラス・マイナス	マイナス
恋愛ソング 1	2	8	0	1
恋愛ソング 2	1	8	0	0
失恋ソング	2	6	1	3
離別ソング	1	11	0	3
卒業ソング	0	10	0	0
死別ソング	1	2	0	3
人生ソング	3	3	0	0
青春ソング	0	0	0	0
応援ソング	0	7	0	2
スタートソング	0	4	0	0
その他	0	3	0	0

ジャンル\±	ゼロ	プラス	プラス・マイナス	マイナス
恋愛ソング 1	0	2	0	9
恋愛ソング 2	2	0	0	8
失恋ソング	3	0	0	28
離別ソング	4	1	1	24
卒業ソング	0	0	0	6
死別ソング	0	0	0	5
人生ソング	2	0	0	10
青春ソング	0	0	0	1
応援ソング	2	0	0	4
スタートソング	0	0	0	2
その他	1	0	0	2

「舞う」という表現は主に恋愛ソング 2 や離別ソング、応援ソング、卒業ソング等において幸福や希望、未来を表すものとして用いられていた。卒業ソングや応援ソングについては、そのジャンル自体の母体数が比較的少ないにも関わらず「舞う」の使用が目立つ。そしてその「舞う」は、未来を思わせるプラスイメージを伴っていた。

「散る」という表現は、主に失恋ソングや離別ソング等における別れ、そして人生ソングにおける「死」を表すものとして用いられていた。

特異な例として、青春ソングにおいては、「舞う」が用いられている楽曲が 0 曲、「散る」が用いられている楽曲は 1 曲と、極端に小さな値となった。これは、ジャンル自体の母体数が少ないという要因に加え、「青春」という花盛りの時期にある人々は、舞ったり散ったりする桜よりも、「咲き誇る」桜に注目する傾向にある、という要因が考えられるのではないだろうか。

2-4-3. 中心感情毎に見る「舞う」「散る」の特徴

更に本研究では、「舞う」や「散る」といった表現の用いられ方と、作詞を行った人物がその楽曲内で最も強く描こうとした感情との間の関わりについて調べた。

〈桜ソング「舞う」の土と中心感情〉

土\感情	愛 し さ	さ び し さ	悲 し み	勇 気	決 意	期 待	郷 愁	感 謝	そ の 他
プラス	22	10	4	4	11	2	1	5	3
マイナス	0	5	3	1	1	1	0	1	0
ゼロ	3	2	2	1	0	1	0	0	1
プラス・ マイナス	0	1	0	0	0	0	0	0	0

「舞う」という表現は、主に決意や愛しさなどの感情が描かれている楽曲のサビ部分等に用いられていた。また、さびしさや悲しみが描かれている楽曲において、幸福な思い出を呼び覚ますものとして用いられる傾向も見られた。

愛しさやさびしさの楽曲

における数値が大きいことについては、母体数自体が大きいという要因も考えられるが、決意や感謝の楽曲については、その母体数に対して「舞う」が登場する楽曲の割合が比較的大きくなっている。

〈桜ソング「散る」の土と中心感情〉

土\感情	愛 し さ	さ び し さ	悲 し み	勇 気	決 意	期 待	郷 愁	感 謝	そ の 他
プラス	1	2	0	0	0	0	0	0	0
マイナス	18	33	18	7	9	5	1	2	6
ゼロ	3	3	1	4	2	0	0	0	1
プラス・ マイナス	0	0	1	0	0	0	0	0	0

「散る」という表現は、主に悲しみやさびしさなどの感情が強く描かれている楽曲に繰り返し用いられていた。また、勇気や決意、期待が歌われる楽曲では、挫折や諦め等の象徴として用いられ、それを乗り越えようとする様が歌われていた。

3. 成果と課題

3-1. まとめと課題

本研究で私たちは、曲の視点人物の置かれている状況や心情といったものが、桜の描かれ方に大きく関与しているということを見出した。

その結果、私たちが辿り着いた桜ソングの「桜像」は、見る人の心を映し出す「鏡」のような存在、というものだ。見る人の内面が、その桜をどのように表現するか、というところに表れ、その内面を映し出すのである。

今後の課題としては、今回着目できなかった「舞う」「散る」以外の桜の形容表現における特徴についても、研究の余地があると考えている。また、歌詞

表現というものは、当然、楽曲のメロディとも深い関わりをもっている。今回は、あくまで「言語表現」として歌詞を捉え分析を進めたが、今後はメロディとの関連性についても研究していきたい。

おわりに

私たちははじめ、「人々はどのような桜を見て、どのような感情を抱くのだろうか。」という疑問を持ち、本研究を進めてきた。しかし、分析を進めていくうちに、その疑問自体にずれがあったのだということが明らかになった。見る桜の違いによって感情が変化するというよりも、むしろ、桜を見る人物の心情によって、桜の捉えられ方、そして描かれ方が変化していたのだ。

さらに、桜は視点人物の過去を想起させる、あるいは未来を思い描かせるきっかけとなっていることもわかった。毎年咲いて散っていくという桜の特性が、思い出の場所として、印象的なワンシーンの象徴として、視点人物の記憶を呼び起こすとともに、これから咲く未来をも思わせるのである。

桜を見る人物の心情、振り返る過去、そして思い描く未来によって、桜はその見え方を変える。来る四月、あなたは、桜を見て何を思うのだろうか。その桜は「舞って」いるだろうか。それとも、「散って」いるだろうか。あなたが来年桜に出会うときには、その桜があなたにとってどのように見えたのか、ぜひ意識してみてほしい。そこには、きっとあなたの「心」が投影されているはずである。

指導教員	野浪正隆	先生			
ゼミ構成員	木村圭吾	小山遼太	坂浦みなみ	竹野成音	
	西田優花	淵脇 萌	堀田ゆりあ	吉田浩太郎	